わんりぃ

318号
2026/11

日中文化交流市民サークル‘わんりぃ’
町田市三輪緑山 2-18-19　寺西方
〒195-0055　☎：044-986-4195
http://wanli-san.com/
E メール:t_taizan@yahoo.co.jp



颯爽と買い物：四川省チベット自治区の人たちは恰好が良い。若い男性が帽子をかぶって歩くさまはカウボーイのように決まっている。一方女性も多くの人が体格良く、姿勢よく歩くさまはかっこいい。
（2025 年 7 月、四川省小金県にて　佐々木健之）

‘わんりぃ’ 2026 年 11 月号の目次は最終ページにあります

薬膳のお話-１８

風邪にも種類がある？

趙 迪（ちょう てき）

～中医学から考える、風邪と食養生～

秋が深まり、朝晩の冷え込みが感じられる季節になりました。これから冬に向かうにつれ、風邪やインフルエンザなどの感染症が気になる時期です。風邪をひいた時、寒気がして鼻水が止まらなくなる人もいれば、喉の痛みや熱っぽさが先に現れる人もいます。同じ「風邪」と呼んでいても、その症状は人によってさまざまです。

中医学では、こうした症状の違いに注目し、風邪にもいくつかのタイプがあると考えます。そして、その時の体の状態によって、養生の方法も異なるとされてきました。

今回は、身近な風邪を例に、中医学ならではの体の見方と、日常生活に取り入れられる食養生についてお話しします。

▪□・□・□・□・□・□・□・□・

■中医学では、風邪をどう考えるのでしょう？

中医学では、自然界の気候の変化が人の体に影響を与えると考えます。

風、寒さ、暑さ、湿気、乾燥、熱という六つの気候の要素を「六気（ろっき）」と呼びます。これらは本来、自然界に存在する正常なものですが、気候の変化が激しかったり、体の抵抗力が弱っていたりすると、体に不調をもたらす原因になると考えられてきました。

このように、病気の原因となったものを「六淫（ろくいん）」と呼びます。

風邪の場合、中医学では特に「風邪（ふうじゃ）」という外からの邪気が関係すると考えます。ここでいう「風邪」は、一般的な「かぜ」とは読み方も意味も異なる中医学の言葉です。

風は寒さや熱など、ほかの邪気と一緒に体に影響することが多いため、風邪にもさまざまな現れ方があると説明されます。

代表的なものが「風寒（ふうかん）」と「風熱（ふうねつ）」です。

ただし、これは中医学における伝統的な症状の捉え方です。現代医学では、一般的な風邪の多くはウイルス感染によって起こります。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症も含め、原因となる病原体を症状だけで判断することはできません。

■寒気が強い「風寒タイプ」

風寒とは、文字どおり「風」と「寒さ」の影響を受けた状態を指します。

中医学では、寒気が強い、透明でさらさらした鼻水が出る、頭痛や体の節々の痛みがある、汗があまり出ないといった症状が特徴とされています。例えば、冷たい風に長時間当たった後、ぞくぞくと寒気を感じ、鼻水が出始めたような状態です。

中医学では、このような時、体を冷やさず、温かく過ごすことを大切にします。

薬膳でよく用いられる食材には、生姜や長ねぎがあります。生姜は中医学で「辛温（しんおん）」の性質を持つとされ、体を温める食材として古くから親しまれてきました。長ねぎの白い部分も、伝統的に寒さを感じる時の食養生に用いられます。

例えば、薄切りの生姜と長ねぎを少量加えた温かいスープはいかがでしょうか。食欲がない時には、お粥に少量の生姜を加えるのもよいでしょう。ただし、生姜やねぎを食べることでウイルスが排除されるわけではありません。発熱時には無理に汗をかこうとせず、水分を十分に補うことが大切です。

■喉の痛みが目立つ「風熱タイプ」

一方、「風熱」は、風と熱の影響を受けた状態と考えられています。

中医学では、喉の痛みや腫れが目立つ、熱っぽさを強く感じる、口が渇いて水分を欲しがる、鼻水が粘り気を帯びることがある、といった症状がよく挙げられます。

風寒タイプとは異なり、熱の症状が目立つのが特徴です。このような時、中医学では辛く刺激の強いものや、体を温める性質の強い食材をむやみに摂ることは勧めません。

伝統的な薬膳では、梨や大根などが用いられます。梨は中医学で、体に潤いを与え、乾燥した喉をいたわる食材と考えられています。生のまま食べてもよいですが、冷たいものが苦手な方は、少量の水で柔らか

く煮ると食べやすくなります。

大根も日本の食卓になじみ深い食材です。煮物やスープにすれば、喉が痛く食欲が落ちている時にも取り入れやすいでしょう。ただし、梨や大根が風熱の原因を治療するという意味ではありません。また、喉の痛みや発熱の程度によっては、食事の工夫だけでなく医療機関での診察が必要です。

■風寒と風熱だけではありません

中医学では、このほかにも風邪に伴うさまざまな状態を考えます。例えば、夏の暑さと湿気の影響を受け、体が重い、食欲がない、吐き気がするといった症状を伴うものを「暑湿（しょしつ）」と呼びます。

また、もともと「気」が不足し、疲れやすく、体力が落ちている状態を「気虚（きょ）」と呼びます。中医学では、気虚の人は外からの邪気に対する抵抗力が弱いと考えられてきました。

以前、この連載でも「気」についてご紹介しました。「気」は体を動かすだけでなく、外からの邪気から体を守る働きも担うと考えられています。このように、中医学では風邪そのものの症状だけでなく、その人の体質や普段の体調にも目を向けます。

ただし、これらは必ずしも互いに独立した病気の種類ではなく、症状や体質を理解するための伝統的な分類です。

■風邪の時、食事で大切にしたいこと

ここまで中医学による風邪の分類をご紹介しましたが、実際の生活では、どのような食事を心がければよいのでしょうか。まず大切なのは、無理をせず、体の状態に合わせて食べることです。

風邪をひくと、発熱や喉の痛み、鼻づまりなどによって食欲が落ちることがあります。そのような時に、栄養をつけようとして脂っこい料理を無理に食べる必要はありません。

温かいお粥、柔らかく煮たうどん、野菜スープなど、食べやすく消化のよい料理を選びましょう。

卵や豆腐、鶏肉などを少量加えれば、たんぱく質も補うことができます。

また、発熱や発汗によって体の水分が失われやすくなるため、水分補給も欠かせません。

以前ご紹介した中医学の「津液」は、体を潤す大切な存在でした。風邪で熱が出たり、汗をかいたりする時には、体の潤いにも目を向けたいものです。

水や白湯、スープなど、飲みやすいものを少しずつ摂りましょう。脱水が心配される場合には、必要に応じて経口補水液などを利用します。

■「風邪には生姜」とは限りません

薬膳というと、「この症状にはこの食材」と覚えたくなるかもしれません。しかし、中医学で大切にされているのは「弁証施膳（べんしょうせぜん）」という考え方です。

これは、体に現れている症状や体質などを総合的に捉え、その状態に合わせて食事を考えるという意味です。例えば、生姜は体を温める食材として知られていますが、熱っぽさや喉の強い痛みがある時に、大量に摂ればよいというものではありません。

反対に、梨は潤いを与える食材として用いられますが、冷たいものを食べると胃腸の調子が悪くなる人は、温かく調理するなどの工夫が必要でしょう。

食材にはそれぞれ性質があり、食べる人の状態によって取り入れ方も変わります。以前の連載でご紹介した「食べ物にもそれぞれの性格がある」という考え方は、まさにこうした日常の食養生につながっています。

■風邪の時こそ、休養を大切に

最後に、忘れてはならないことがあります。薬膳は、日々の食事を通して健康を支える養生の知恵であり、風邪やインフルエンザを治療するものではありません。

十分な休養と水分補給を心がけ、呼吸が苦しい、水分が摂れない、意識の状態がおかしいなどの症状がある場合には、速やかに医療機関に相談してください。

高齢の方や持病のある方、妊娠中の方などは、早めの相談が特に大切です。風邪をひいた時、「何を食べれば早く治るだろう」と考えることもあるでしょう。そんな時こそ、まず自分の体の声に耳を傾けてみてください。

寒気が強いのか、喉が痛いのか。食欲はあるのか、水分は十分に摂れているのか。中医学が大切にしてきたのは、一人ひとりの体の状態をよく観察することです。特別な食材を探さなくても、身近な食材を使い、その時の体調に合わせて食事を整えることはできます。

毎日の食卓に、そんな小さな養生の知恵を取り入れてみてはいかがでしょうか。

中国そぞろある記―(13)

大連、そしてハルビンへ

文と写真＝村上直樹

先月号（2026 年 10 月号）で、大連の中山広場に面している「大連賓館」(旧大和旅館）は、現在、営業を停止しているようだ、と書いた。最新のニュースによると、この 10 月からフランスの世界最大級のホテルチェーン・アコー(Accor)グループの「大連賓館費爾蒙(フェアモント)酒店」として生まれ変わったそうだ。1914 年に日本人の手により竣工したバロック様式の建物がまた新たな歴史をスタートさせた。

さて、大連からハルビンに移った翌日（2026 年）8 月 26 日の午前中は、市中心部近くの新しい観光名所、「東方盧浮宮」(東方ルーヴル宮殿）に行く。最寄り駅は地下鉄 3 号線(環状線)の「市第二医院」である。場所は有名製薬会社の工場「哈薬集団製薬六廠」(哈薬六廠）の跡地である。建物自体は西洋の古典建築(バロック・ロココ様式）を模した絢爛豪華もので、とくに建物内の「版画博物館」が見所である。午前 10 時ごろ、すでに多くの観光客で賑わっていた。

『百度百科』によると、この建物は、まだ「哈薬六廠」がこの地で操業していた 2004 年に本部事務棟として建造され、2005 年には「版画博物館」も造られた。その後 2021 年に工場が移転し、この敷地・建物は使用されなくなっていた。それが 2023 年初めに(突如)、外観がフランスのルーヴル宮殿に似ていると SNS 上で話題となり、ショート動画プラットフォームで爆発的な人気を博すようになった。それに押されて(？)、2024 年 1 月 16 日「版画博物館」を含めて正式に無料公開されるようになった、という経緯らしい。現在ではハルビン市当局もその運営に関わっているようで、「ハルビン芸術宮版画博物館」が正式名称なのかもしれない。

昼食を済ませて、午後は、今回のハルビン旅行最大の目的である「侵華日軍第七三一部隊遺跡」の見学へと向かった。ハルビン市平房区に広がり、最寄り駅は地下鉄 1 号線の終点「新疆大街」である。新疆大街を東方向に少し進むと、左側に塀で囲まれた広い敷地が現れた。「侵華日軍第七三一部隊遺跡」と書かれた大きな石板を過ぎて更に行くと、近代的な建物に着いた。「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」（以下、「罪証陳列館」と略記）の新館（2015 年 8 月 15 日開館）である。入館無料だが、事前にネットによる予約が必要である。入口前は保安検査を待つ長蛇の列だった。ただし、高齢者（65 歳以上？）とその付き添い者は別の列からすぐ入館できた。

日本は 1931 年 9 月 18 日の「満州事変」以降、七三一部隊を主力とする細菌戦部隊により『ジュネーヴ議定書』などの国際条約に違反して中国および東南アジアで細菌人体実験を行い、細菌兵器を製造して、細菌戦を繰り返し実行した。史上例を見ない「反人類暴行」（反人類的暴行）である。本館ではそうした暴行に関する現存の遺跡、罪状文物、膨大な資料および研究成果を示して「展示罪証、揭露罪行、捍衛和平、面向未来」(証拠を提示し、残虐行為を暴き、平和を守り、未来へと歩み出す）ことを趣旨としている。

「わんりぃ」の活動拠点の 1 つである川崎市に関わる展示として、「陸軍登戸研究所」における風船爆弾の開発・製造も取り上げられていた。書籍販売コーナーでは、七三一部隊研究の第一人者である館長の金成民氏によるサイン入り最新刊『黒盒(ブラック・ボックス)七三一』上海交通大学出版社、2026 年 6 月、を買い求めた。氏は 1964 年生まれ、30 余年に亘って七三一部隊の罪状を明らかにする研究を続けている。私は、今から 29 年前の 1997 年 8 月 17 日に一度この遺跡を訪れたことがあり、その時に金氏に会っている。当時、金氏は、すでに『日軍第七三一部隊罪行見証』黒龍江人民出版社、1995 年（韓暁との共著）を上梓していたとはいえ、本格的に研究を始めたばかりであった。

上記著書の日本語版（中野勝訳)『死ぬまえに真実を：侵略日本軍第七三一部隊の犯罪』青年出版社、〔上：中国人の証言〕1997 年 5 月、〔下：日本人の証言〕1997 年 8 月、を片手に、来年（1998 年）初めて来日する予定だと話していた。その後 1998 年 2 月の某日、ある女性から私に電話があり、金成民氏が東京に来ているので、3 人で会いたいと誘われた。どこで

何を話したかもすっかり忘れてしまったが、その女性こそ、日本人として七三一罪証収集に精力的に取り組んでいることで知られる山辺悠喜子氏でなかったかと思う。

「罪証陳列館」を出て、敷地内に点在する遺跡を見た。1997 年に来た際には、とくに館員の女性が案内してくれた（特別なことだったのかもしれない）。当時は、敷地内は整備されておらず、不勉強の私では自分で遺跡を確認し、近づくことはできなかったと思う。しかし、29 年後の今回は、敷地内の整備も進み、標識を頼りに、少し迷ったものの自分たちで確認することができた。まず「本部旧跡」である。この建物は 1936 年に建造されたもので、1997 年 8 月の時点では「ハルビン市第二十五中学校」として利用されており、中には入れず、周囲を巡った。その同じ建物が、今回来て見ると、展示館として公開されており、石井四郎の執務室などが復元されていた（**写真**）。そこから少し歩くと、七三一遺跡の象徴と言える「動力班鍋炉房」(動力班ボイラー室)の跡がある(**写真**)。このボイラー室の写真は、森村誠一『悪魔の飽食』光文社、1981 年、には「現在の第七三一部隊跡・未公開写真」の ㉑ として掲載されている。知られているように、七三一部隊は 1945 年 8 月 15 日の敗戦直前に、大本営からの特命を受け、捕虜の殺戮、施設の爆破等により、証拠隠滅を図り、日本へ撤退した。とりわけ石井四郎以下、部隊の上層部が、戦後、医学界など日本社会の中枢にのうのうと居座り続けていたことは「罪証陳列館」でも大きく取り上げられていた。爆破から一部残った、このボイラー室は一連の蛮行を今に伝える巨大な遺構である。そばでは一人ポツンとサクソフォーンを吹いていた。傾く夕日を受けて、鎮魂の曲に聞こえた。その手前には「鉄路専用線」の旧跡が走っている。雑草がかなり生えており、現在は使われていないようだ。他にも「毒気実験室旧跡」などが広大な敷地内に点在している。「罪証陳列館」内には多くの参観者がいたのに比べて、屋外のそうした遺跡を直接見ている人はごく少なかった。



石井四郎の執務室（2026 年 8 月撮影）


動力班ボイラー室の遺跡（2026 年 8 月撮影）


七三一部隊宿舎区旧跡（2026 年 8 月撮影）

七三一部隊に関連した遺跡は、この敷地内にとどまるものではなく、広く平房区全体に残されている。地下鉄の駅の近くにも「給水塔旧跡」があった。この周辺はアパート、商店が立ちならぶ、ごく普通の生活空間である。七三一部隊関係者の住居も残っており、修復されて現在も使用されている。道路沿いの 3 階建ての長いビルである(**写真**)。「侵華日軍第七三一部隊宿舎区旧跡」とのプレートを見つけた。ただし、解説は表面がすり減ってまったく読めなかった。

（つづく）

■参考資料:『百度百科』、広中一成『七三一部隊の日中戦争』PHP 新書、2025 年 7 月他。

⌘ 晩秋のカラコルムにて（完）⌘

ウランバートルへの帰路よもやま(9)　　**吉光 清**

10 月は「芸術の秋」たけなわ、文化的な催しがあちこちで催される。先日、とある催し[注)]に偶々参加したら、「モンゴル舞踊」を観ることが出来た。舞手は若い女性が一人、民族衣装ではなさそうなクリーム色の足元までの丈長のドレスで、踊りの動きに伴って腰から下に黄色のスカートが現れた。何の小道具も無く、身体の動きだけで表現される踊りだった。指先から腕、肩へと、しなやかな動きが波のように伝えられ、風に靡く草原を感じさせた。躍動感溢れる軽やかな動きは草原を疾駆する馬たちを思わせた。

その舞踊と共に流されていた歌にも惹きつけられた。女性が歌っており、言葉ではない「アー」や「ウー」の音を、抑揚を付けながら、長く尾を引くように歌う歌唱もモンゴルらしさを感じさせた。しかし、辛うじて「听不到」「不回头」「很远」「不知道」と聞き取れた箇所があったので、中国語の歌詞に違いなかった。プログラムを見たら『ウランバートルの夜』と記されていたので、これが踊りの名称か、踊りの間に流された曲名だろうと思った。

帰宅して早速、『ウランバートルの夜』で検索すると、すぐ見つかった。モンゴル語版と中国語版の歌唱の動画が有った。中国には 40 年ほど前に紹介されて、いろいろなバージョンが発表されたようだった。

当夜、流されていたのは『洋澜一』演唱のバージョンだった。その動画では彼女の透き通った歌声とともに「草原に放牧された羊たち」「オルホン滝」やカラコルム「エルデネ・ゾー寺院」を空から撮影した映像が使用されていた。動画の哀愁に満ちた歌唱を聴きながら、旅の思い出を反芻した。『乌兰巴托的夜』は思い出に繋がる大切な歌になった。

■早朝の眺めとゲルの配置

9/28（ウランバートルに到着する当日）の朝は 6 時過ぎに目覚めてしまった。展望窓の左にある出入り口からデッキチェアを一つ、ウッドデッキに運び出して腰掛けた。曇り空で、太陽は見えなかったが、特に寒いとは感じなかった。枯れ草色の平原と遥かに続くなだらかな山々を眺めたが、隣り合っている



ウッドデッキの端から見えた「209 番」「208 番」のゲル

筈のゲルは見えない。不思議に思いウッドデッキの端まで行って覗き込むと 2 棟のゲルが見えた。

なるほど、それぞれのゲルの展望窓からは他のゲルが視界に入らないように、また、敷地の中には散策路を無くし、他者が展望窓に近づいて来ることが無いように配置して、プライバシーを保障しているのだと了解した。

室内に戻り、バーカウンターの所で敷地全体の配置を見た。ウッドデッキの端から見えたゲルは「209番」と「208番」のゲルだった。レストランのあるゲルは丘の最高部にあり、それを宿泊用のゲルが二重の半円上に囲んでいる。各ゲルの展望窓はすべて外側に向かって設置されている。



敷地内の建物配置（ホテルの map を加工）

■極上の朝風呂だったが・・・

6 時半を過ぎたところで、バスタブ横のカーテンを挙げて、バスタブから展望窓の外の景色が見られるようにした。それからバスタブに給湯を始めた。蛇口の左右にコックがあり、左側のコックを開けると高温のお湯が出て、右側のコックを開



展望窓からの景観を眺めながらの朝風呂

けると常温の水が出るので、適温のお湯が出るように両方のコックを調整した。蛇口からの湯量は豊富で、程無く体が浸かれるくらいになった。この浴室には溢れたお湯の排水設備は無いので、溢れさせたら一大事になる。それに、衣服を脱いだり、風呂上がりの体を拭くスペースが無いので、バスローブが必須アイテムである。ウォークインクローゼットから取り出して来て準備した。

バスタブに仰向けになり、頭を起こして草原を眺めた。極めつけの朝風呂である。バスタブにタップリお湯を張ったので、身体が浮かんで、頭までお湯に浸かりそうになり、両手でバスタブの縁を掴んで支える羽目になった。さらに、日頃の入浴と勝手が違ったのは洗髪と髭剃りで、このバスタブとは相性が悪い。お湯で温まり、バスローブのまま洗面所に移動し、洗髪と髭剃りを済ませた。贅沢にお湯を消費し、後ろめたい気持ちになった。

■和の朝食は嬉しかったが・・・

支度を整え、予定通りの８時に車を呼んだ。数分でレストランの階段の前に着いた。階段を昇った玄



レストランのデッキからの展望、近くに宿泊用のゲルが見える



朝食の和定食は「一汁四菜」だった

関のところで、昨夜の日本人の二人連れが立っていた。玄関の扉が開いていないようである。中から駆け付けた男性従業員が開錠して、昨晩の食事の時とは異なる区画に案内した。外にウッドデッキがある、草原の展望が開けたテーブル席だった。天気の良い日は外でも食事やお茶を楽しめるのだろう。『レーモン・ルフェーブル』の音楽が流れている。二人連れの客は奥の席に案内されて行った。二人の間の控え目なやり取りを見ると新婚旅行らしく思えた。

お盆に載って運ばれて来たのは、見た目は堂々たる「一汁四菜」の和食であった。ご飯は左手前に、味噌汁の椀は右手前に、主菜の位置に豆腐の煮物、副菜の位置に玉子焼き、中央奥に箸休め、中央にお浸しと醤油が並んでいる。黄色の沢庵が前に出しゃばり過ぎでご愛嬌だった。お味の方は残念ながら、似て非なるものだった。日本人客を意識してのメニューだろうから、もう少し改善を図って欲しいと思った。

■もうすぐウランバートル

二人の客より先にゲルに戻り、荷物を纏めて車を呼び、受付のあるゲルに９時に着いてチェックアウトした。既にガイドさんの車は待機していた。車に乗れば１時間余りでウランバートルに着く筈である。モンゴル帝国の首都だった『カラコルム』を目指し、9 /25 にウランバートルを出発した４日間の旅が終わることになる。念願の世界遺産を訪れることが出来た満足感と、その往復で体験した幾つかの感動的な出来事は決して忘れないだろう。　　（完）

■注：「とある催し」とは、2026 年 10 月 11 日(日)、於四谷区民ホール『東方文化芸術団 30 周年記念・チャリティコンサート、アジア音楽舞踊演奏会』であった。会場内の垂れ幕は『東京田漢聂耳専場音楽舞踊演唱会』となっていた。主宰者は『田偉』女史で、『田漢』の姪に当たる。彼女の経歴等については、「わんりぃ 256 号」で寺西俊英氏が触れている。

漢詩の心を日本語で

「卜算子」蘇軾

本田 幸枝

■はじめに

9 月号、10 月号では蘇軾の『水調歌頭』を取り上げ、満月の丸さに円満・団円を重ねる内容と、英訳を例に原詞のもつ定型のリズムや音の響きを翻訳にどう反映できるかを見ました。今回は欠けた月の詞を読み解きながら、意味と響きの両方を日本語に翻案する試みをご紹介します。

【原詞】

bǔ suàn zǐ huáng zhōu dìng huì yuàn yù jū zuò

卜 算 子· 黄 州 定 慧 院 寓 居 作

sū shì

苏 轼

quē yuè guà shū tóng
缺 月 挂 疏 桐

lòu duàn rén chū jìng
漏 断 人 初 静

shuí jiàn yōu rén dú wǎng lái
谁 见 幽 人 独 往 来

piāo miǎo gū hóng yǐng
缥 缈 孤 鸿 影

jīng qǐ què huí tóu
惊 起 却 回 头

yǒu hèn wú rén xǐng
有 恨 无 人 省

jiǎn jìn hán zhī bù kěn qī
拣 尽 寒 枝 不 肯 栖

jì mò shā zhōu lěng
寂 寞 沙 洲 冷

【書き下し文】

卜算子・黄州の定慧院　寓居の作

缺月　疏桐に挂り
漏断えて　人初めて静かなり
誰か見ん　幽人の独り往来するを
縹緲たり　孤鴻の影
驚起して　却って頭を回らすに
恨み有るも　人の省みる無し
寒枝を揀び尽せども肯て棲まず
寂寞として　沙洲冷やかなり

【訳詩】欠けた月

枯れ枝に　欠けた月
人寝静まる　一時過ぎ
うろうろと　世捨て人
はるか弧をかく　鴻も

振り返る　胸に抱く
思い解する　人も無く
冬枯れた　山見たが
木々に栖まいは　しなかった
舞い降りる　ここ沙洲
しんしん夜は　更けてゆく

■詞の背景

作者の蘇軾（1037～1101 年）は、政治的な対立のなか、対立する相手から詩文で朝廷を誹謗したとして罪に問われ（烏台詩案）、黄州（湖北省）へ左遷されていました。副題は「黄州の定慧院に仮住まいして作った」の意味です。なお蘇軾が定慧院にいたのは、黄州に到着した旧暦二月から五月までと知られています。

■詞の意味を追う前に

この詞では欠けた月の夜に、孤独な人物と一羽の鳥が登場します。どこまでが人の姿で、どこからが鳥の姿か、身体的動作か心理的意味か、心象風景か実景か、判別しがたい像の重なりが魅力です。訳詩では、これらの像の重なりと、原詞の持つ普遍性と余白を保つことを心がけましたが、避け

きれないニュアンスの差異に対しては「孤高であることの誇りと痛み」をテーマに自ら孤高を選ぶ物語として整理しました。ここでは原詞ならではの余韻を味わってみたいと思います。

■前半（一〜四句）：欠けた月と人と鳥

【一・二・三句】欠けた月が葉のまばらな桐の木に掛かっています。「漏断」は深夜を指す表現です。漏刻（水時計）の水音も絶え、人々が寝静まる中、「幽人」が独り往来しています。「幽人」は世を離れひっそりと暮らす人を指す語です。世界が眠る中、ただ一人動くその姿は、欠けた月と合間って欠落感を抱えているように見えます。なお三句目「誰見」は幽人の心に寄った表現ですが、「時見」とするテキストもあり、その場合はより客観的な描写となります。どちらの場合も静と動の対比がとても美しいです。

【四句】そこに「孤鴻」が登場します。「鴻」はガンなどの大型の水鳥のことですが、同時に「燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや」のように大きな志を持つ人物を連想させる語でもあります。それが「孤」、つまり群れを離れた一羽として遥かに霞んでいます。

■後半（五〜八句）：重なる人と鳥と沙洲

【五・六句】「驚起」は、はっとして立つ、ぱっと飛び立つという身体的動作にも、はっと驚く心理的意味にも読めます。「回頭」も、後ろを振り返る身体的動作のほか、我が身や過去を振り返る心理的意味にも読めます。「有恨無人省」は、“胸の奥にあるどうにもならない思いを分かってくれる人がいない”あるいは“自分を理解する人がいないという心の澱がある”という意味です。こうした決めきれない表現を通じて、人と鳥の姿が曖昧に重なりあいます。なお「恨」は他人を憎む「恨み」の気持ちではありません。

【七句】止まる枝を探しますが、探し尽くしても冬枯れた枝のどれにも止まろうとしません。一般的には、自分にふさわしくない場所に妥協しない孤高の姿と解釈されます。ただし、ガンは通常木の枝に止まらないため、この表現をめぐっては古くから議論があります。

【八句】「寂寞」はもの寂しくひっそりとした様、「沙洲冷」は“沙洲が冷たい”あるいは“冷え冷えとした沙洲”の意味です。「沙洲」は水辺に砂が堆積してできた地形を指します。ここで日本の川にできる小さな中洲（砂の島のような地形）を思い浮かべると、岸から離れ、寄る辺のない孤立・孤独の象徴に見えます。一方、現在の黄州周辺の長江には数 km 規模の沙洲が確認できます。当時の長江にも同様の沙洲があった可能性を踏まえると、この句には心象だけでなく黄州の実景も映っているように思われます。なお八句目を「楓落吳江冷」とする異文もありますが、前後の繋がりから疑問視する注釈もあり、私も同感です。

■『卜算子』の形式：5575 と平仄

詞はもともと歌の歌詞であり、曲に合わせる形で生まれた定型詩です。曲の題名が後に歌詞の規則を指すようになり、これを詞牌と呼びます。詞には、漢詩同様に平仄もあります。平仄は当時の言葉の響きによる分類で、平らに伸びる平声と、途中で調子が変わったり詰まったりする仄声があり、その配置が詞の調子を支えています。

詞牌『卜算子』では、五文字・五文字・七文字・五文字の並びを二度繰り返す「5575×2」を基本の形とし、偶数句の末字で仄声の韻を踏みます。下では、平声を○、仄声を●、仄声で押韻する字を★で示しました。似た配列が繰り返され、○と●が偏りなく混在していることがわかります。なお、●が三つ続く「●●●○○」も標準的な配列です。

缺月挂疏桐　漏断人初静
●●●○○　●●○○★
誰見幽人独往来　縹緲孤鴻影
○●○○●●○　●●○○★
驚起却回頭　有恨無人省
○●●○○　●●○○★

揀尽寒枝不肯棲　寂寞沙洲冷

●●○○●●○　●●○○★

■この詞および詞牌『卜算子』との出会い

この詞と詞牌『卜算子』を知ったのは 2023 年の‘わんりぃ’の漢詩の会でした。五・五・七・五という、日本語の七五調にも通じるリズムの心地よさ！　有名歌手の持ち歌という現代的な受容のされ方！　そしてこの詞の表現の素晴らしいこととときたら！　その場で紹介された曲を参考に、帰りの電車でさっそく 5575×7 に訳し、合わせて資料をかき集めました。

しかし調べるほどに新しいことが分かりました。日本語にはない平仄の規則、仄声の韻の響きがこの詞の意味内容とマッチして世界観を深めていること、三句や八句の異文、五句・六句の多様な解釈、長江に存在する広大な沙洲、『卜算子』の「子」は短い曲によく使われる接尾語、有名無名問わず多くの人により曲が作られていること――こうした発見がある度、折に触れ訳詩を見直しています。今回は「字数の規則は厳格に、“聞いて分かる”を優先し、響きの規則は緩やかに」という順を意識し、次の規則で作りました。

- 5575 を何組かで訳す
- 全体ではなく、5575 の一組ごとに韻を揃える
- 各組の一・二・四句は末尾の母音を揃える
- 各組の偶数句は末尾二つの母音を揃える

結果として、今回は三年前より短い 5575×5 にまとめられました。“聞いて分からない”語はなるべく言い換えましたが、「沙洲」は実際の黄州の景色を意識し、そのまま用いました。響きの面では、仄声の韻の代わりに、鋭い響きのイの母音やカ行を意識して配置しました。なお原詞では、押韻しない奇数句の句末は韻と響きを変えて平声に作りますが、訳詩では各組の三句目の末尾が他の句と同じ母音になることも許容しました。また歌い方によって母音が揃う箇所も規則を満たすものとしました。例えば「しなかった」は「しなかぁた」と歌うものとし、「やまみたが」の「アア」と母音の響きが揃うものと見なしました。

■原詞と訳詩のニュアンスの差異

訳詩では、原詞や蘇軾の人生に照らして読めるよう、また、原詞を知らなくても読めるよう、意識しました。ニュアンスの差異が少なくなるよう気をつけましたが次のようなずれがあります。

- 人と鳥：原詞では淡い影のような存在同士として重なり合う。原詞は訳詩ほどはっきりとした表現ではない箇所がある。
- 寒枝：原詞では木が一本か、複数か、スケールは明示されない。山とは書かれていない。
- 沙洲：原詞では人や鳥との関係は明示されない。「冷」であると明示される。
- 時間：原詞では「漏断」以降、明示されない。今よりさらに夜が更ける描写はない。

この「漏断」の訳語選択は、特に難しい問題でした。私には「一時過ぎ」のような時計の針の連想も、「丑三つ」のような怪異の連想もなく、「聴覚的な静けさに加え、視覚的な静止のイメージを伴う深夜」として響きます。この「静」のイメージの差は、訳詩全体の静と動の対比にも影響し、ずれが生じる主因となりました。

■終わりに

詞はもともと曲に合わせて歌われました。ミュージカルの吹き替えのように、中国語でも日本語でも、好きな言葉で歌えたら素敵だと思います。

漢詩の会では、詞の読み方について「クイズじゃないんだから、正解を当てるように読むのではなく、その解釈が心にグーッとくるかを大切にしたらいいのでは」とのお話がありました（‘わんりぃ’2024 年 1 月、290 号)。解釈や訳に絶対の正解はありません。今回の紹介が、意味と響きの両方に耳を澄ませ、自分の心にグーッとくる読み方を見つける助けになれば嬉しいです。

サウンド・オブ・ミュージック

和田　宏

〈映画『サウンド・オブ・ミュージック』〉

1965 年(昭和 40)に公開されたアメリカのミュージカル映画『サウンド・オブ・ミュージック』は本当にあった出来事を基にして作られた映画だということや、登場人物のモデルとなった人たちの子孫が現在もアメリカに住んでいることを「わんりぃ誌」の読者の皆さんは、ご存知でしょうか？アメリカ映画『サウンド・オブ・ミュージック』に出て来るトラップ一家は、オーストリアの実在の家族合唱団でした。ナチスが台頭する中、寡夫となった旧オーストリア・ハンガリー帝国の退役海軍大佐ゲオルグ・フォン・トラップ(1880 年~1947 年 享年 67)と子供たち 7 人、その子供達の家庭教師となった歌好きの修道女マリア・アウグスタ・クチュラ(1905 年～1987 年 享年 82)が織りなす物語です。トラップ一家を支え続けたのが、修道女からゲオルグの後妻になったマリアです。一家は破産し、ナチスドイツに支配された故郷オーストリアを離れて難民になり、アメリカに渡って様々な困難に遭いながらも、マリアは一家を導き、家族の未来を音楽によって切り開き、何事にもくじけず明るく生きたのでした。

映画の中では、マリア役をジュリー・アンドリュースが、ゲオルグ役をクリストファー・プラマーという俳優が演じています。

〈マリアの生い立ちとトラップ家族〉

マリアはオーストリアのチロル地方で、1905 年 1 月 26 日に、病院に向かう汽車の中で生まれました。マリアが 2 歳の時に母親が病気で亡くなり、父親も 9 歳の時亡くなったため、親戚のおばあさんに育てられ、やがてザルツブルグのノンベルク修道院に入り、修道女の見習いをしていた、1926 年に妻を亡くした 7 人の子持ちのゲオルグ・フォン・トラップ男爵の屋敷へ、住み込みの家庭教師として勤めるようになりました。ゲオルグは 1900 年から 1901 年に起きた“扶清滅洋”をスローガンにした義和団事件や第一次世界大戦で活躍したオーストリア海軍の軍人でした。21 歳のマリアは、最初は病弱な次女の家庭教師を頼まれただけでしたが、朗らかで細かいことにこだわらない性格のお陰で、他の 6 人の子供たちとも



「トラップ一家 1938 年（People Inc.より）

直ぐに打ち解けます。そして、1927 年、22 歳の時、25 歳も年上の 47 歳になるトラップ元艦長から結婚を申し込まれ、マリアは、いっぺんに 7 人の子供たちの母親になったのでした。

〈ファミリー合唱団の結成〉

ある時、一家が全財産を預けていた銀行が破産し、一家の安楽な暮らしは一夜にして失われました。ところが、マリアはめげるどころか、一家の一大事に直面して張り切ります。マリアの発案で広い屋敷の部屋をホテルとして開業することにしました。たまたま、トラップ家を訪れた教会合唱音楽の専門家であるルフランツ・ヴァスナー神父は、マリアと子供たちが歌う讃美歌の美しいハーモニーに驚き、歌の指導を始めたのです。これこそ、「トラップファミリー合唱団」の始まりでした。家族合唱団の強みは、声の質が似ていることで、見事に溶け合いました。1937 年、『トラップ・ファミリー聖歌隊』としてヨーロッパ各地を巡る演奏旅行がスタートしました。父親のゲオルグは、ヴァイオリン、ギター、マンドリンも弾くし、歌も上手だったのですが、舞台では歌わず、舞台の袖から家族を見守っていました。

〈祖国との別れ〉

1938 年 3 月、ナチスドイツがオーストリアに侵攻し、一家の愛する祖国オーストリアは併合されました。アドルフ・ヒットラーの誕生パーティーで歌って欲しいとまで頼まれましたが、ゲオルグは、“Heil Hitler（ヒットラー万歳）！”を唱えるより、自

分の理想と魂の自由を守りたいと考え、家族を連れて祖国を出て行く決心をしました。一家は、イタリア、スイス、フランスへと移動し、大西洋を渡って自由の女神が司る新しい国・アメリカ合衆国に、1939 年 10 月やっと上陸しました。この時、マリアのお腹には赤ちゃんがいました。マリアは、ゲオルグの前妻アガーテとの間の 7 人の子供に加えて、ゲオルグとの間に出来た 3 人の子供を含めると、合わせて 10 人の子持ちになるのでした。

〈新大陸アメリカでの暮らし〉

言葉も習慣もヨーロッパと異なる新天地アメリカで、マリア達は苦労を重ねます。けれど、神の導きを信じるマリアには、どん底の絶望は無く、常に明るさと前向きの姿勢がありました。言葉が判らなくても歌心は通じると信じていたマリアたちでしたが、アメリカの聴衆に受け入れられるようになるまでに時間がかかりました。一家は、『トラップ・ファミリー聖歌隊』という名前で、教会で歌う宗教曲がメインの演目でしたが、『トラップ・ファミリー合唱団』に名前を変えて、歌う曲も楽しいフォークソングを入れたり、チロル地方の民族衣装をまとったりし、お化粧もしました。アメリカに来て初めて英語を学んだマリアでしたが、その話しぶりは、家族が歩んで来た苦楽の道など、ユーモアに満ちていたので、次第に聴衆に受けるようになりました。

〈受け継がれていく伝統〉

一家はプロの合唱団でしたが、大人数の家族なので、食べて行くだけでも大変でした。カナダとの国境に近いヴァーモント州ストウに行った時に見つけた農場がまさしく一家の故郷オーストリアに似た所だったので、そこを買い取り、第二の故郷にしました。一家の六女・ローズマリーは、『私達は家族共同体でした。まるで昔の開拓時代の家族のようでした』と語っていますが、マリアを中心にしたトラップ一家の家族の絆は、実に堅固なものでした。

やがて、ゲオルグが 1947 年 5 月肺がんで 67 歳で亡くなりました。1948 年にはアメリカ市民権を取得し、一家はアメリカ人になりました。マリアが 1949 年に書いた自叙伝が『トラップ・ファミリー合唱団物語』だったのです。この本を基にして、1956 年、西ドイツ映画『菩提樹』(原題：Die Trapp-Familie)と『続・菩提樹』が制作されました。次いで 1959 年、アメリカでブロードウェイ・ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』が上演され、更に 1965 年、映画『サウンド・オブ・ミュージック』が公開されたのです。娘たちや息子たちが結婚したりして、ついに合唱団は 1956 年に解散しました。その後も農場の大きな家をホテルにし、名前を『トラップ・ファミリー・ロッジ』と名付け、広いトラップ家の敷地に建つチロルの山小屋風のホテルは、今やヴァーモント州の有名な観光地となっています。家族単位で泊まれるコテージもあり、水泳、スキー、野外コンサート、釣り、ゴルフなどが楽しめます。



「フォン・トラップ・シンガーズ」(チケットぴあより)

1987 年 3 月 28 日、82 歳のマリアは家族に看守られつつ永遠の眠りにつきました。マリアの音楽魂は子や孫たちに受け継がれ、曾孫 4 人の合唱団『フォン・トラップ・シンガーズ』は世界を巡る姉弟合唱団となり、2013 年夏に初来日して関東各地で演奏会を行ないましたが、筆者は 2013 年 8 月 4 日に渋谷公会堂で行われたコンサートを聴きに行きました。

苦しい時は共に泣き、楽しい時は共に笑い、いつも一緒に困難を乗り越え、歌を歌いましょう。擱筆に当たって、オーストリアへの郷愁と愛国心を込めてトラップ大佐が歌う『エーデルワイス』を贈ります。

Edelweiss, Edelweiss Every morning
you greet me
Small and white, clean and bright
You look happy to meet me
Blossom of snow, may you bloom
and grow, bloom and grow forever.
Edelweiss, Edelweiss,
Bless my homeland forever.　　(完)

近江八幡に生きた建築家ヴォーリズ

文と写真＝福島 裕子（ひろこ）

お茶の水にある山の上ホテルの建築は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計し 1937 年に竣工した。ホテルの開業は 1954 年で川端康成や三島由紀夫らに愛されたが、建物の老朽化により 2 年前に休業した。しかし築 90 年となる来年の夏、改修を終えて再開することが決まっている。ヴォーリズの建築を愛する人々には嬉しいニュースだ。



一柳満喜子とウィリアム・メレル・ヴォーリズ
（ヴォーリズ・エデュケアセンターのサイトから）

先頃、出身大学の住居学科の同期会が大津市の琵琶湖ホテルで行われた。せっかくの機会なので近江八幡で途中下車してヴォーリズの建築を見ることにした。近江八幡市の名誉市民第一号となったヴォーリズは、その建築のみで無く温かい人柄で人々を魅了したようだ。その生い立ちと彼の手がけた建築について紹介したい。

◆建築家から伝道の道へ

ヴォーリズは 1880 年にアメリカ中西部カンザス州レブンワースで生まれるが、病弱だったことから両親は彼のために自然の豊かなフラッグスタッフに引っ越した。両親共に敬虔なプロテスタントの信者で、その影響で彼は生涯、禁酒・禁煙を貫いたと言う。音楽の大好きな少年で小中学校時代は教会や学校でオルガン奏者を務めた。

高校卒業後、コロラド・カレッジで建築を学んだ後、マサチューセッツ工科大学に進む予定だったが転機が訪れる。大学 2 年の時に中国で布教活動をしていた宣教師夫人のテイラー女史の演説に感銘を受け、海外での布教活動に人生を捧げる決意をする。コロラド・カレッジを卒業した彼は日露戦争最中の 1905 年、横浜港に入港する。

◆来日して高校の英語教師に

24 才で来日したヴォーリズは、YMCA の紹介で近江八幡の滋賀県立商業学校の英語教師となる。生徒たちに慕われた彼は、英語による聖書の勉強会を始める。しかしキリスト教信者が増えることに反発する動きもあり、追い詰められた彼は体調を崩してしまう。米国に一時帰国して療養したおかげで体調は回復するものの、わずか 2 年で英語教師の職を解かれてしまう。

その後も彼は近江八幡に留まり、キリスト教の伝道と建築設計の事業を行う。当初は学校や教会関係の依頼が中心だったが、やがて彼の真面目な仕事ぶりは伝わり、日本各地で様々な建築を手がける。今も残る彼の手による学校建築は豊郷小学校旧校舎、関西学院大学、神戸女学院大学、明治学院大学礼拝堂などなど。

◆満喜子との運命の出会い

大同生命二代目社長の広岡恵三が自宅の設計をヴォーリズに依頼した時、通訳として打ち合わせに同席したのが一柳（ひとつやなぎ）満喜子だった。広岡恵三の実の妹で、元播磨小野藩主の一柳末徳子爵の娘。神戸女学院音楽部卒業後、ペンシルバニア州の名門校に留学した。津田梅子も学んだブリンマー大学だ。満喜子は津田塾の二代目塾長の有力候補だったそうだ。彼女は留学中に洗礼を受ける。日本で最初に洗礼を受けた 4 人の華族婦人の一人だ。

ヴォーリズは広岡邸で満喜子の弾くピアノに耳を傾け、運命の人と感じたに違いない。前例の無い華族令嬢と外国人の結婚は猛反対されるが、広岡浅子の強力な後押しの下に無事に結婚に漕ぎ着ける。広岡浅子は NHK の朝ドラ「あさが来た」で波瑠が演じた大同生命の創業者だ。満喜子の実兄の広岡恵三は婿養子として広岡家に入った人。

二人は 1919 年、ヴォーリズが設計した明治学院礼拝堂で盛大な結婚式を挙げた。ヴォーリズは質素倹約を望んだが、広岡恵三の希望で結婚式は名家に相応しいものとなり新聞でも報じられた。

◆それぞれの使命を果たして

ヴォーリズは伝道活動のための資金を教会の援助に頼らず、建築設計や様々な事業で得ていた。ヴォーリズに共鳴した実業家ハイドから提供されたメンソレータムの代理販売権もその一つだ。ヴォーリズの活動は、近江ミッション（後に近江兄弟社に改名）が担った。ヴォーリズの死後、メンソレータムの販売権を失ったが、近江兄弟社メンタームの名前で事業が継承されている。

結婚後の満喜子は、地元の未就学児を対象としたプレイ・グラウンド（今日の学童保育）の事業を担当する。それは近江ミッションが取り組んで来たものだ。やがてそれは清友園幼稚園となり、現在の近江兄弟社学園となる。その芝生の庭に彼女の胸像がある。

◆帰化して一柳米来留になる

日米関係の悪化に伴い、ヴォーリズはある決断をする。日本に帰化し満喜子の実家の一柳姓を名乗った。「米来留」はメレルの当て字でヴォーリズ自身が考えたものだ。米国から来て日本に留まると言う意味を込めている。しかし戦中は監視され不自由な暮らしぶりだったそうだ。太平洋戦争の始まる前に、アメリカに逃避したアントニン・レーモンドとは対照的だ。彼と結婚したために満喜子が戸籍を失い、日米関係の悪化で 20 年以上もアメリカ国籍を得られなかったことはその決断に大いに影響したのだろう。

余談だがヴォーリズは、昭和天皇を戦争責任の追求から守ったと言われている。ヴォーリズ記念館を見学した際、解説してくれた方から聞いた話だ。近衛文麿が人を介してヴォーリズに相談を持ちかけたらしい。彼は悩んだ末にひとまず東京に出て GHQ 司令部に赴いたそうだ。そこでマッカーサーの通訳をしていたアメリカ人との知己を得てマッカーサーへの手紙を託したとか。天皇は日本人の戦後復興に欠かせない存在であることを伝えたと言う。その後マッカーサーが昭和天皇の訪問を受け、その人格に感心して“最高の紳士”と賞賛したことは皆の知るところだ。

◆近江八幡に残るヴォーリズの建築

池田町には彼が手がけた洋風建築群がある。それらはアメリカ開拓時代のコロニアル様式で、高い煙突と赤い煉瓦塀が特色。今も人々が暮らしている。ウォーターハウスは一棟貸しで宿泊可能。

旧八幡郵便局舎は後年のヴォーリズに見られるスパニッシュスタイルのはしりだ。今はギャラリー兼カフェになっている。

近江兄弟社学園（現ハイド記念館）では広々とした講堂と教室を見学しながら、ヴォーリズと満喜子それぞれの経歴とヴォーリズの建築家ならびに伝道師としての軌跡を知ることが出来る。

ハイド記念館と教育館の手前にヴォーリズ記念館がある。見学には予約が必要だ。ここはヴォーリズが晩年を過ごした場所でもあり、彼の使ったピアノや彼の書の額もある。妻のための和室もあり、そこには可愛らしい梅のデザインの欄間が設けられていた。

ヴォーリズの建築は様々なスタイルを用いており、統一性が無いと言われることもあるが、住む人にとっての使い勝手の良さは重視されている。ヴォーリズ記念館で彼が自ら描いた図面を見せてもらった。鉛筆による線描の美しい図面だった。ある邸宅の台所の平面図には使い手の動線が書き込まれていた。住居学科で私が学んだことに通じる点があり、その空間で過ごす人たちの使い勝手を考えた建築家だったことが感じられた。

彼の著書に『吾が家の設計』上下巻がある。彼の建築は日本の環境や習慣に馴染み、その近代化にも大いに寄与している。


ウォーターハウス祈念館


一柳（ヴォ―リズ）記念館


ハイド記念館・教育会館と満喜子の胸像

ゼロから始める中国生活－1

資本主義者、初訪中

桑原公男

初めまして、桑原と申します。今年(2026 年) 9 月で 64 歳、昨春に長年勤めた会社を退職し、悠々自適の生活をしています。

縁あって“わんりぃ”に入会、早速に投稿をすることとなりました。

私は40年以上前、学生の時分に或る中国人夫婦と知り合い、それから中国と接するようになりました。大学の第二外国語は、当時ごく少数派の中国語を選択、そして仕事も専ら中国との貿易を行う商社に勤めました。

その関係から仕事で 100 回以上訪中、また足掛け 7 年の常駐も経験、中国の良い部分も悪い部分も見てきました。

きわめて個人的な回想談、また拙い文章ではございますが、ご一読いただければ幸いです。

～～～～～～～～～～

まずは学生時代、卒業間近の1985年冬の話から。

旅行会社が主催する 5 週間の短期留学ツアーに参加、上海外国語学院(現在の上海外国語大学)で寮生活をしながら中国語を学ぼうというものだった。

勉強とはいっても午前 3 時間、上海なまりがキツい先生がごく初級の中国語授業をするのみで、



◆**魯迅公園の月票**:毎日街にでて遊んでいたわけですが、学校から市内に出るためにはまず魯迅公園を通り抜け、そこでバスに乗る必要がありました。入場料を毎回払うのは面倒で高いので、定期券を買いました。定期券という制度は、今ではなくなっているはずです。



◆為替両替:当時の為替はうろ覚えながら、１ドル＝200円超だったと思います。元との為替も１元＝90数円、円安といわれる昨今よりもさらに円安の時代でした。中国の物価自体はおそらく安かったと思われますが、それでも我々外国人が出入りするような場所では、決して安くはありませんでした

午後は自由活動というもの。しかし、その午後こそが本当の勉強になった。

学校は上海の北西部にあり、市中心から離れていたが、午後は毎日のように上海街に出た。

街に出る手段は主に路線バスで、料金はたった三分。満員で車掌に料金を払うのが難しい。他の乗客に倣い、乗った後に車内でバケツリレーよろしく他の乗客に現金を順次手渡ししてもらい、しばらくすると薄紙の切符がこれも手渡しリレーで戻ってくる。いまでは到底考えられない光景だが、ほのぼのする手法だった。

ある夜のこと、乗車し料金を払おうとしたら「不要」と言われたことがあった。「いやいや、払うよ」と言うも車掌いわく「これは終バスで、金庫はもう閉めちゃったから」と。これが世に聞く共産主義の悪弊か、と不快になった。

上海の目抜き通りは、昔も今も南京路だ。その真ん中に、当時は最先端だった第一百貨店があった。ちょうど第一百貨店にエスカレータが初導入された時で、店に入ってすぐの吹き抜けに一階と二階を結ぶ真新しいエスカレータが鎮座しており、その周りを見物客(？)がぐるり取り囲んでいた。おぼろげな記憶では、エスカレータは有料だったはず（私は乗らなかったが)。

デパートの階上には各種商品の売り場があったが、ショーケースには申し訳程度の商品が置かれているのみ。そして噂に聞いた「没有！」を体験し、共産主義に対する否定感を一層募らせたのであった。

学内では 2 名の事務員の女性からよく声を掛けられ、へたくそ中国語で雑談をした。彼女たちは、私ともう一人の日本人留学生にそれぞれ興味を持っているらしいと人づてに聞いた。もちろん女性には興味あり！ある日、その留学生と申し合わせて彼女らを街見物に誘ってみた。

バスで街中に出て、お洒落なホテルでお茶でも、ということになった。当時開業まもない上海賓館だ。ところが入口で門衛に止められた。我々ではなく、彼女たちに待ったがかかったのだ。彼女らは門衛となにやら話をし、また求めに応じて身分証明書を提示、何とか入場許可された。

彼女たちの話では、中国人は原則として外国人が泊まれるホテルには入れないとのことだった。外国人の豊かな様子を自国民に知られたくないとのことに違いない。

街角に戻り、小さな菓子でも買って彼女たちにあげようとしたところ、ここでも障碍が。店の売り子から「糧票（穀物配給券）」と「人民元」を要求されたが、当然持っていない。彼女たちが代わりに出そうとするのを止め、あとで学内の購買で買ったお菓子をプレゼントした。

社会主義路線まっしぐらの中国の街は、確かに興味深く、またある意味勉強にもなった。その一方で私はモヤモヤを増長させていた。

ある週末、蘇州一泊旅行があった。お決まりの水郷巡りや寒山寺コースだ。何と、ここで心温まる光景に出会った。それは古跡名勝ではなく、寒山寺横の土産物屋通りだ。店の売り子が、精一杯の笑顔と声で、我々においでおいでをしているではないか！ 嗚呼なんと自然な営みだろう。

私は取るに足らない土産品をいくつか買い、大満足で蘇州を引き揚げた。

学内の食事も一つのイベントだった。

まず入口で直径 30cm はあろうかというアルマイト製の洗面器を受け取る。そしてそこに一辺 15cm ほどの立方体に切った白米の塊を入れる。数種の料理を選んでブッカケ、準備完了。素朴な料理は結構おいしく、また白米にときどき入っている小石もどこか懐かしかった。



◆**領収書**：左は学校事務員とのダブルデートで入った上海賓館のカフェのもの。右は錦江飯店での留学仲間との食事。ほとんどが手書き領収書の時代、印字の領収書は稀でした。

街では、結構な確率で地元の人に声掛けされた。よく会ったのは、「ワタシ日本語ベンキョーしています。ブンツーしましょう！」というもの。いきなり文通はさすがに断ったが、彼らの勉強熱心さからの行動であることはわかり、嫌ではなかった。

圧倒的に多いのが、外滙券（FEC）と人民元のヤミ両替屋だ。当時中国では輸入製品を買うためには、外滙券が必要だった。日本製の電卓や自転車などが人気商品だと聞いた。FEC は人民元より良質の紙で作られており、それは良いのだが、やたら横長で財布にも入れづらいサイズだった。

共産主義の嫌なところをさんざん見せられていた私は、それに飛びついた。あまりたくさん交換しても使いきれないので、せいぜい千円二千円だが、1 対 1.2 ぐらいの言い値から始まり、最終的には 1 対 1.5 ほどで決着していた。一人のバイニンと交渉していると、横から二人目が割り込んでくることもあり、そんなときは二人を競わせたりもした。

お金を眼前にすると、中国人は昔も今も本当に活き活きする。私はそんな中国人が好きだ。この国に共産主義は似合わない。

あんなことこんなこと思い思いに

みんなの広場

●徒然なるままに

恩泽乡里（故郷に恩恵を！）

後藤芳昭

この標題は、今、wowow で放映中の中国テレビドラマ「大生意人～大商人への道」の中で主人公が故郷の安徽省のお茶生産業者に多大な貢献をもたらしたことに対する村人の感謝を表す扁額として書かれたものだ。

恩泽は、辞書によると文語体で、（君主の）人民への恵みの意味とのこと。

用例として、恩泽被及草木（恵は、草木に及ぶ）が挙げられている。

泽は、澤(沢)で水の沢としか思ってなかったが、辞書によると、なんと恩恵、恵、情け、人の恵みという意味もある。また動詞で潤っている、湿っているとも使われるとのこと。

そうなると易経の八卦で使われる名称（天，泽，火，雷，风，水，山，地）にも泽があるが俄然その意味合いが深いことが分かる。

ちなみに中国語は一つの漢字で名詞や動詞、形容詞等の役割があると言われ、文脈で判断せよといわれる。

しかし、我々にはなじみにくい。

例えば、忙という字。

忙しいと言う形容詞の使い方しかしないが、中国語では、形容詞の使い方以外に、你忙吧！（自分のやっていることを続けてね）と動詞で使う。

我々は一文字ずつ慣れて、覚えていくしかない。泽もそんな一文字となった。

ところで冒頭に紹介したこのテレビドラマは、今放映中で 40 回まである。

清朝末期の激動の時代に身一つでビジネス帝国を築いていくサクセスストーリー。

毎回の意気詰まる展開に夢中になっている。あと 6 回しか残ってない。

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

あかあかと
日はつれなくも
秋の風

松尾芭蕉

chì rì shuò shuò dāng tóu zhào
赤 日 烁 烁 当 头 照

wēi fēng zhèn zhèn yì xiān qiū
微 风 阵 阵 意 先 秋

韓鑫さんの俳句と AI によるイラスト



今月のオススメ映画 “我们去看电影吧！”

福島　裕子（ひろこ）

「わんりぃ」編集長の提案を受け、毎月映画の紹介をさせて頂くこととなった。新百合ヶ丘の二つの映画館で見られる映画を数本ご紹介したい。

◆わたしの知らない子どもたち

敗戦後の日本を戦争孤児たちを通して描いた作品。西川美和監督は 1974 年広島に生まれ早稲田大学を卒業後オリジナル脚本で監督デビューする。初期の作品は兄弟の確執を描き秀逸だった。以後、彼女の作品は漏らさず見続けている。前作「すばらしき世界」では刑を終えた元ヤクザを役所広司が演じた。深い孤独の滲み出る様に慄然とさせられた。元ヤクザと心を通わせる青年役だった仲野太賀は今や「豊臣兄弟」の主役だ。ベテラン俳優も若手も彼女の映画で一皮剥ける。

今回の作品はコロナ禍に企画し始め日本の観客には遠過ぎると思っていたそうだが、いつの間にか現実の物語となった。今年見逃せない一本！

◆NAZA ナザ（2026 年イギリス）

現在進行形の戦争の実態を暴いた問題作。2023 年 10 月の戦闘開始以来、ガザ地区では 74000 人以上の人々が犠牲になっている。しかもその大半は民間人だと言われている。「ノー・アザー・ランド 故郷は他にない」を撮ったイスラエル人ジャーナリストが、イスラエル兵士と諜報員 24 人に極秘インタビューしたもの。タイトルの「NAZA」とはイスラエル軍が標的であるハマス構成員を攻撃する際、巻き添えとなる民間人の予測数を表す軍事用語。ヴェネチア国際映画祭他で多数受賞。

◆さよなら、私のロシア（2025 年クロアチア他）

もう一つの戦争にまつわる私的なドキュメンタリー。ソ連崩壊の動乱の時代にジャーナリストになったジャンナ・アガラコワ（監督・主演）は順調にキャリアを築くが、ウクライナ侵攻に抗議してロシア国営テレビの海外特派員の職を辞す。アメリカ在住の彼女は 3 歳で母国を離れた娘に故郷を見せたくて、夫と 3 人で休暇の度にロシア各地を旅する。その過程で母娘の意識のズレが炙り出されロシアを偉大な国と信じ、プーチン一色に染まって行く報道に追随した自身への内省の旅となる。

◆進行曲 マーチングボーイズ（2025 年台湾）

わんりぃ読者に相応しい爽やかな青春映画を一本紹介したい。1990 年代の台北を舞台に、マーチングバンドに賭ける若者たちを描いたもの。台湾屈指の名門建国高校に入学したジャン・ハオは医学部志望。勉強の邪魔になるからと部活を父親に禁じられるが内緒でマーチングバンド部に入部する。優等生の部長や天才肌の問題児と出会い、切磋琢磨する。ある不祥事をきっかけに廃部の危機が訪れるが… ラストのパフォーマンスは俳優たちがスタント無しで実際に演奏したものだそうだ。

◆雌鳥（2025 年ギリシャ・ドイツ・ハンガリー）

毛色の変わった作品を一つ紹介したい。鶏の目を通して人間社会をシニカルに描く。養鶏場で生まれ育った雌鳥が出荷用トラックから脱走する。生まれて初めて自由を手にした彼女は、ワケあり家族の庭の鶏小屋に安息の地を得る。そこで恋をして産まれた卵が孵ることを夢見るが、彼女の卵を雛に孵す夢は叶うのか、また家主一家の問題とは？ アニマルトレーナーの指導の元、8 羽の雌鳥が分担して名演技を繰り広げていると言う。









【中国の笑い話-69】「365 夜笑話」より　　翻訳:有為楠君代

第 244 話　昔からの名言を実践する話

昔、ある兄弟がおりました。ある日、兄は友人の家に出かけました。その時折悪しく、家が火事になりました。兄嫁は、この弟に、急いで兄を呼び戻すように言いつけました。

弟は、兄の友人の家に急ぎましたが、兄が友人と将棋を指しているのを見ると、兄に声をかけずに将棋を見ていました。

将棋の勝負がついたところで、やっと「兄さん、家が火事だからすぐ帰ってきて！」と言いました。

兄は急いで立ち上がると、弟に「馬鹿者！なんでそれを早く言わないんだ！」と言いました。

弟は、それを聞くと「昔から言うでしょ、将棋を見ながら口をはさむのは紳士じゃないって。兄さんも知ってるでしょ。だから僕は何も言わなかったんだ！」と答えました。

これを聞いて、兄は激怒し、弟に平手打ちを喰らわせましたが、弟はじっと立ったままでした。

周りの人は不思議に思い「お兄さんに殴られたのに、どうして逃げないんだ？」と訊きました。

弟は「昔からいうでしょ『立派な男には、暴力は役にたたない』って。私は兄を恐れていません。ただ、昔の人が言った言葉を実践しているんですよ」

第 245 話　本の虫、宴席に侍る

王部落に、王と言う私塾の先生がいた。五人の生徒を教えて数年、五人は皆、一般生活からかけ離れた本の虫になっていたが、王先生はそれが自慢で、いつも李村の李先生に自分が教えた学生がいかに知識に富み，礼をわきまえているかを自慢していた。

ある日、李先生は、王先生と学生たちを自宅に招き、ご馳走をすることした。王先生は、行く前に学生たちによく言い聞かせた：「お前たちは、あちらに着いたら、私の目配せをよく見て、私がやることを真似るように」と言い聞かせた。学生たちは「かしこまりました」と答えた。

その日は丁度小雨がふっていて、王先生は李家の門をくぐる時、足を滑らせ、両手を広げて危うく転ぶのをまぬがれた。5 人の学生はきちんと見ていて、王先生と同じようによろけた。門まで出迎えた李先生はこれを見て驚き、内心、「これは何の意味だろう？ これは王先生が教えた特別な礼儀作法なのだろうか？」と考えた。

室内に入り、席も決まって、王先生と李先生はおしゃべりをしながら箸を取り上げると、5 人の学生も箸を取り上げた。「王先生が教える学生は人を見る目がある」と、李先生は、ますます感服するのだった。

続いて、王先生は箸で肉をはさみもうとしたが、うっかり食卓に落としてしまい、自分に腹を立てて思わず箸を卓上に投げ捨ててしまった。学生たちもそれを真似する。李先生は驚いて「これは何か遊びの一種なのだろうか」と思った。

王先生は、すぐに席を和ませる必要を感じて、長い春雨を一本、はしに挟んで口に入れたが、急いでいたのでむせてしまい、春雨は鼻から出て来てしまった。5 人の学生も皆春雨を口にくわえて真似をしようしたが、すぐに、どうしたら良いのかわからないことに気が付いた。この情景を見て、王先生は怒りを抑えることが出来ず「5 人とも、何をしているのだ！ 馬鹿者！」と叱った。

学生たちは、先生がこれから教えてくれるもので未だ教えてもらっていないものだと思い、素早く言い返した「先生、申し訳ありません。でもこの動作は、最近教えて頂いた中には入っていません」。



【わんりぃの催し】

♫ ボイス･トレで日本語の歌を歌おう！

身体の力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター!!
＊動きやすい服装でご参加ください。

● **会場**：玉川学園コミュニティーC多目的室 3
● **日時**：11 月 24 日（火）10：00～11：30
12 月 8 日（火）10：00～11：30
● **講師**：Emme［エメ］（歌手）
● **会費**：2,000 円（講師謝礼・会場費）
● **定員**：15 名（原則として）
● **申込**：☎042 - 735 - 7187（鈴木）

～～～～～～～～～

∞∞わんりぃの中国語勉強会∞∞

●**場所**：鶴川市民センター
●**日時**：毎週火曜日　14：00～16：00
●**講師**：郁　唯（天津師範大学卒業）
●**会費**：5500 円（会場費・講師謝礼）
●**定員**：10 名（原則として）
●**申込**：柳田　☎090-4677-7793
e-mail:yanagita_hi@yahoo.co.jp



■**定例会　代表宅**

▼ 11 月　13 日（金）13：15～
▼ 12 月　18 日（金）13：15～

■**‘わんりぃ’発送　三輪センター**

▼ 11 月号　11 月 1 日（日）
▼ 12 月号　12 月 2 日（水）

☆☆編集後記☆☆

今年 10 月までの台風は 31 号を数えました。今までの最多発生数は 39 号だそうですが、今年はまだ 2 か月もあり、しかも、大気及び海水温の状態が、台風を発生させ易い条件に近いので、まだまだ発生数は増えるだろうと言われています。それにしても、10 月末に発生した台風が、日本に災害をもたらすとは驚きです。例年、９月後半の台風は、日本のはるか南で北に進路を変え、温帯低気圧となって消滅したものです。日本への影響と言ったら、時々の大きなうねりを太平洋岸にもたらし、9 月以降の海水浴は危険だと言われるようになったことぐらいです。10 月末の台風 32 号は、地球温暖化の象徴であり、来年以降も増えるのではと心配です。

～～～～～～～～～～～

‘わんりぃ’は、新入会をいつでも歓迎いたします。

年会費：1800 円、入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりぃ
10 月以降の入会は、当年度会費 1000 円
■問合せ：044-986-4195（寺西）
Email：t_taizan@yahoo.co,jp

‘わんりぃ’318 号の主な目次

薬膳のお話（18）……2
中国そぞろある記（13）……4
晩秋のカラコルムにて（完）……6
漢詩（うた）の心を日本語で（７）……8
サウンド・オブ・ミュージック……11
近江八幡に生きた建築家ヴォーリズ……13
ゼロから始める中国生活（1）……15
みんなの広場……17
‘わんりぃ’の催し・お知らせ……20